

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

<b>研究領域名</b>	細胞シグナリング複合体によるシグナル検知・伝達・応答の構造的基礎
<b>領域代表者</b>	箱嶋 敏雄（奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・教授）
<b>研究期間</b>	平成 22 年度～平成 26 年度
<b>科学研究費補助金審査部会における所見</b>	<p>本研究領域は、細胞内シグナル伝達経路に関わるタンパク質複合体を「細胞シグナリング複合体」と位置づけ、その三次元構造を決定し、シグナリング複合体の相互作用特異性や機能制御のメカニズムを構造生物学的観点から解明することを目的としている。細胞シグナリング複合体の原子レベルでの解析から、“機能している現場”でのタンパク質群の姿を捉えるという意欲的な研究領域である。現代の生命科学研究にとって構造生物学的解析は重要となっており、分子複合体の構造研究で実績をあげている研究者が集結し、シグナリング複合体に着目して研究に取り組む点が評価できる。また、計画研究の一部を若手研究者で構成し、さらに公募研究で若手研究者を広く参画させようとする点も評価できる。本研究領域の推進によって細胞シグナル伝達機能の構造的基盤が明らかになることが期待できる。</p>